



### フードロス削減名人になれるかな？

11月7日(月)、4年生の稲花タイムは、オイシックス・ラ・大地から講師をお迎えしての特別授業(第1回目)でした。授業では、謎のスナックを試食させていただき、その原材料を考えます。正解は普段は捨てられてしまうブロッコリの茎と知って、子どもたちはびっくり。クイズやお話により、世界や日本のフードロスの現状を学んでいきました。リサイクルの言葉はよく知っている子どもたちですが、教職員を含めてなじみがないアップサイクルについても教えていただきました。そして、来週の第2回目までに、各家庭での取り組みについてそれぞれが調べてまとめてくることになりました。

子供たちの理解力に合わせ、また、心をしっかりつかんだ授業の展開でした。クイズとなると夢中になる本校の子どもたちですが、クイズとしてだけでなく、問いに対してじっくり考えることのできる子どもが増えたこともうれしく感じました。第2回目の授業が楽しみです。

オイシックス・ラ・大地株式会社 <https://www.oisixradaichi.co.jp/>

### 俳句を作ろう

11月8日(火)は、東京農業大学名誉教授で俳人の中川純一先生による、3年1組の稲花タイム「俳句を作ろう」が行われました。この3年生の子どもたちは、昨年も中川先生に俳句を教えていただき、冬休み明けには、それぞれ作ってきた俳句から優秀作を選句していただいたこともあります。その後、国語の授業でも俳句について勉強してきた子どもたちは、授業の最初から張り切って俳句作りに取り組みました。

その場で作った俳句を、それぞれが短冊に書き、無記名で提出します。それをホワイトボードに書き出し、皆が気になった句を選ぶのです。これらについて、中川先生は作者の子どもの気持ちをよく聞きとってください、それを他の子どもたちにもわかるように伝えてくださいます。この日、俳句を通して、子どもたちは他の子どもの経験や気持ちを共有できたようです。3年2組の子どもたちの授業は11月15日(火)に行われます。お楽しみに。

なお、中川先生の俳句は、「知音俳句会」のHPなどでもご覧いただくことができます。

知音俳句会 <https://www.chi-in.jp/>

### おにぎり

11月10日(木)は農大稲花小収穫祭給食の日でした。1年生が田植えをし、1年生と2年生が稲刈りをした田奈の田んぼのお米が、おにぎりとして給食に提供されました。1年生の子どもたちは、1kgずつの田奈の田んぼの新米をすでに家庭に持ち帰っていますが、学校でみんなと食べるその味はどうだったでしょうか。ごくごく薄い塩味だけのおにぎりを、北海道産の鮭とともにおいし

く味わった日でした。

なお、田んぼの準備、苗づくり、除草ほかの管理から精米までには田んぼのオーナーである野路様をはじめ、多く皆様にお世話になりました。



### 木工に取り組む

11月11日(金)、1年生は稲花タイムで東京農業大学森林科学科教授大林宏也先生に木を使った工作のご指導をいただきました。大林先生には2019年の本校スタート以来、毎年欠かさず、子どもたちへの指導をお願いしてきました。学部長としてご多忙の今年も、いい香りのするヒノキの小さい板をお持ちくださり、これを使ってキーホルダーや置物を自由に作る工作を教えてくださいました。リボンを通す穴を開けていただいたり、ボンドで板どうしを接着する方法を教えてくださいました。子どもたちは思い思いに自分の作品に取り組んでいました。子どもたちは、木の香りや、美しい木目の木材の魅力を十分に味わったことでしょう。

大林先生は木材の加工技術を中心に教育や研究を行っておられます。大切な森林資源をどう活かしていくのか、子どもたちも興味を持つことでしょう。なお、大林先生のご研究については、以下もご覧ください。

#### 森林資源利用学分野 木材工学研究室

<https://www.nodai.ac.jp/academics/reg/for/lab/1005/>

### 体操帽が見当たらない？

本校では在校生とその保護者だけが閲覧できる「在校生メニュー」によって、学校からの様々な情報をお伝えしています。そのほか、メールなどでの回覧を個別に行うこともあります。1年生を中心に低学年では、担任から保護者にお伝えすることも何かと多いのですが、学年が進むにつれて、そして内容にもよりますが、子どもたちには、先生に注意されたことを含め、学校で起きたことを自分で保護者に話すように促しています。例えば体操帽は無くなりやすいモノの一つですが、忘れもの、あるいは無くしものとして学校からお知らせするのではなく、子ども自身が体育の授業に体操帽を忘れてしまったこと、あるいは、体操帽を無くしてしまったかもしれないことを保護者に伝えられるようになってほしいと思っています。一方、保護者の皆様には、子どもが困っていることがあれば、まずは自分で先生に話すように促していただくようお願いしています。保護者と教員と

で連絡を取り合った方が早く、間違いがないかもしれません。しかし、自分の問題については自分で考えて保護者や先生に話すように励ますことは、子どもたちの成長のために必要です。もちろん、子どもがうまく伝えられない時や、伝えにくい事柄については、保護者の皆様からのご連絡やご相談はいつでも大切だと考えています。また、子どもたちがいつでも相談しやすい教員であるよう、引き続き本校の全教職員も最善を尽くすようにいたします。

## チームティーチング

本校では1学年2学級を2人の担任と1人の学年担任が協力して指導をしています。チームティーチングのために、日々の打ち合わせは欠かせません。また、毎日の英語の授業では、ネイティブスピーカーの英語講師だけでなく、複数の本校教員が交代で補助を行います。さらに非常勤講師やスクールカウンセラーに指導を受けるだけでなく、教員とともに事務職員も子どもたちを見守っています。子どもたちはまず自分の担任としっかり絆を結ぶとともに、たくさんの「先生」と親しみながら成長していくのです。農大稲花小全体が、子どもを育てるチームと言えます。

また、本校では稲花タイムを中心に、ゲストティーチャーを多くお迎えしています。加えて、アフタースクールのスタッフや講師、警備員、清掃員、給食調理員の皆さんにも、日々お世話になっています。子どもたちが、多数の、立場の違う大人と接することで、礼儀を身に付けたり、視野を広げたりすることを期待しています。

## あるかな？ビジネスチャンス

学校法人東京農業大学の高等学校・中等部/中学校及び本校の校長は、学校法人東京農業大学初等中等教育部統括校長の指導の下、学校運営についての連絡・協議をする機会を定期的に持っています。その際、各学校の生徒が活躍するうれしいニュースを聞くこともしばしばです。最近、隣接する第一高等学校の1年生6人が協力してReWriEat(リリート)というグループを作り、廃棄野菜からマーカーペンを制作し、11月1日から販売を開始したということを知りました。この取り組みにより、リリートは第3回リアビズ模擬起業グランプリの一次審査を通過したとそうです。お兄さんやお姉さんたちの活躍は、SDGsや食品のアップサイクルを学ぶ本校の子どもたちも良い刺激となることでしょう。

模擬企業 リリート <https://sites.google.com/view/rewriecat-home>

## 落ち葉掃き

ケヤキやサクラからおの落ち葉が、通学路や校舎の中に降り注ぐ毎日です。農大稲花小のご近所様にご迷惑がかからないように、毎朝の掃除も欠かせません。今年は、4年生の稲花タイムで、落ち葉たい肥作りに取り組もうと準備をしています。子どもたちには、落ち葉を掃き集めるところから手伝わせる予定です。時期による落ち葉の種類や量の移り変わりなどを知ることも、興味深いものです。

東京農業大学稲花小学校  
校長 夏秋 啓子